

# ニュースレター

No. 66

発行 / NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ  
事務局 / 〒 206-0802 稲城市東長沼 2112-1  
稲城市地域振興プラザ 1F  
TEL 042-378-2112 FAX 042-378-6971  
E-mail : info@i-inagi-support.org  
HP http : //www.i-inagi-support.org/

## コロナ禍の一年間を振り返って



稲城の魅力発信事業



10月の金曜サロンスペシャル

11月の金曜サロンスペシャル



リニューアルしたホームページ

令和2年度は、新型コロナウイルス（以下、コロナウイルス）とともに時が流れ、現在もなお、私たちはこの見えない敵と日々闘いながら、新たな年度を迎えようとしています。

コロナウイルスが私たちの社会生活に与えた影響は大きく、人の生命をも脅かすこのウイルスに対して、ワクチンや治療薬の開発が世界規模で急速に進められています。

今年度、各市民活動団体では、計画していた事業の中止が相次いだ結果、財政難に陥り、活動の継続が困難になったり、メンバー同士の会合・連絡調整などを行うことができず、休会に近い状態にあるなど、コロナウイルスは広範囲にわたって市民活動に大きな爪痕を残しています。

市民活動団体の中間支援を行っている私たち「市民活動サポートセンターいなぎ」（以下、サポートセンター）も例外ではなく、例年私たちが関わってきた多くの事業が、コロナウイルス感染拡大防止のため中止の止むなきに至りました。

今回のニュースレターは「コロナ禍の1年間を振り返って」と題し、サポートセンターがコロナ禍において行ってきた事業や、今後の市民活動の課題などをテーマに、1年間を振り返ってみます。

### 【サポートセンターに関連する 今年度中止となった事業】

- ① 大丸用水れんげまつり（4月29日）
- ② 手づくり市民まつり（5月4～5日）
- ③ Iのまち いなぎ市民まつり（10月23～25日）  
（和太鼓コンテスト・楽しく第九を歌う合唱団演奏会を含む）
- ④ 市民活動交流フェスタ2020（11月28日）
- ⑤ 利用登録団体等懇談会（新春のつどい）（令和3年1月8日）
- ⑥ NPO講座（年1～2回）
- ⑦ 市民活動支援講座（年1～2回）

次に、サポートセンターが今年度予定していた事業のうち、実施できた数少ない事業について報告します。

## 1 金曜サロンスペシャル

### ○第 148 回 (7 月 3 日開催)

テーマ：ビジョントレーニング

話し手：村岡 昭和さん (向陽台在住 色彩心理メンタルトレーナー、ハーバリウム講師)



「ビジョントレーニング」とは、目で様々な数字や文字を追うことにより、その動きを脳に伝達し、脳の活性化を図るトレーニングのことで、その効果は、目の運動、手足の運動を連動させることにより、運動機能やコミュニケーション能力向上に役立つほか、ゲーム性が高くなることでとても楽しく遊ぶことができます。会場で実際に参加者の方々に体験していただきましたが、はじめは戸惑ったもののゲームに慣れてくると皆さん夢中になって楽しんでいらっしゃいました。日頃からのビジョントレーニングがいかに大切なものを学ぶことができました。

### ○第 149 回 (9 月 4 日開催)

テーマ：稲城かるたについて

話し手：鈴木 誠さん (平尾在住 稲城青年会議所第 41 代理事長、郷土史家)



「稲城かるた」は、昭和 64 年、稲城青年会議所が制作し、現在、同団体の創立 45 周年記念事業として再販が計画されています。その「稲城かるた」を題材に、日本におけるかるたの発祥、歴史の話から始まり、「稲城かるた」に謳われている市内の名所・旧跡の解説や歴史エピソードなどを熱く楽しく語っていただきました。鈴木さんのお話は

変わりがやすく、48 枚の読み札のうちの 19 枚を会場に来られた方に読んでもらったり、最後に「稲城かるたテスト」を実施するなど、聞いている人たちを飽きさせない手法で、最後まで楽しいひとときを過ごしました。

### ○第 150 回 (10 月 2 日開催)

テーマ：伝統文化の継承と言うけれど

話し手：田中 真人さん (東長沼在住 稲城市剣道連盟顧問、剣道教士七段)



話し手の田中さんからは、剣道の由来は剣の道、戦いのための武器であったにもかかわらず、現代では刀剣を使うことと剣道は全く別のものになっていることに触れ、剣道を志す人にも、刀の魅力と剣道の魅力をその中で改めて、ぜひ知ってもらいたいという思いが伝わってきました。

そのための入口として、まずは日本刀をはじめとする真剣に実際に触れてもらい、その歴史や用途がどのようなものであったかを知ってもらうことから剣道を始めれば、一層、剣道の魅力が増してくることを力説されていました。

### ○第 151 回 (11 月 6 日開催)

テーマ：プロ格闘技“キックボクシング”と私

話し手：栗芝 貴さん (百村在住 キックボクシング元日本フライ級 1 位、伊原道場稲城キックボクシングジム会長)



栗芝さんのお話の中で一貫していたのは「感謝」というキーワードでした。栗芝さんにとってキックボクシングを教えることは、世界チャンピオンを輩出することだけでなく、キックボクシングを通して地域の子供たちに礼儀や感謝を含めた色々なことを教えたいということであり、お話の中で地域のために貢献したいという思いを強く感じました。

当日は現役世界チャンピオンの重森選手をはじめ、多くの選手が登場し、実際にスパーリングを実演していただくなど、活気にあふれた金曜サロンスペシャルとなりました。

## 2 行政との協働企画講座

日時：10月2日（金）午後3時～5時

講師：小林攻洋氏（市民活動サポートセンターいなぎ理事）

参加：平成31年度と令和2年度採用の市職員24名

内容：協働のまちづくり推進のため、地域課題に対して、職員のスキルをどのように活かしていくかを話し合いました。

## 3 稲城の魅力発信事業

日時：11月22日（日）午前10時～午後0時30分

テーマ：南山を歩いてその魅力を発見する

参加者：16名（子どもを含む）

コース：京王稲城駅に集合 → 奥畑谷戸公園事務所 → 南山クラブハウス → 地区内の保育園・幼稚園・小学校 → 給食センター → 稲城府中墓苑組合 → 京王稲城駅で解散

当日は、何よりも好天に恵まれ、気持ちよく有意義な視察ができました。子どもからお年寄りまで、16名の参加をいただき、市と開発業者などが一体となった新たなまちづくりのモデルをゆっくり見ることができました。全体としてこれからも、まだまだ発展の要素がたくさんある「住みやすいまち」という印象を受けました。



## 4 情報発信ツールの整備・充実化

サポートセンターでは、6月に「新型コロナウイルス感染症対策に係る緊急アンケート」を実施しました。

このアンケートで、登録団体の皆さんから「団体の存在と活動内容をより多くの市民に知ってもらえるよう広報の仕方を工夫してほしい」「オンラインによる手続きの簡素化やイベントの充実化を図ってほしい」などオンライン事業に関して、多くの意見をいただきました。

このアンケート結果を受けて、オンライン事業の充実化の一環として、9月からYouTubeで金曜サロンスペシャルの動画公開を行っています。

さらに、登録団体の皆さんに自治体や他団体の情報を迅



金曜サロンスペシャルの動画を公開しているYouTubeチャンネル。YouTube内で「市民活動サポートセンターいなぎ」で検索してください

速に提供するとともに、多くの市民の皆さんに登録団体のPRやイベント情報などを提供するためのツールとして、サポートセンターのホームページを大幅にリニューアルしました。

新しいホームページでは、団体独自のHPやSNSをお持ちでない場合にも、市民の皆さんに団体の活動内容やイベント情報をお伝えできるよう、各団体の紹介ページの内容を拡充し、過去のホームページでは周知できなかった団体の活動をより分かりやすくお伝えしたいと考えています。

また、サポートセンターが実施する事業や会議室・印刷室などの設備の内容紹介も充実させ、市民の皆さんが参加・利用しやすい情報発信を行っていきたくと思っています。

## 5 Wi-Fi環境の整備

サポートセンターでは、地域振興プラザ4階会議室を利用する市民の皆さんの利便性向上を図るために、インターネット環境（Wi-Fi）を整備しました。会議室を利用する方はWi-Fiを無料で利用できます。利用したい方は、1階事務局窓口でパスワードをお伝えします。

利用が可能な場所は、地域振興プラザ4階の大・中・小会議室です。

令和2年度はコロナと共に始まり、コロナ禍の中で終わろうとしています。サポートセンターでは、コロナ禍において市民活動団体に対して今できること、次年度以降の市民活動につながることに主眼を置き、市民活動団体が求めている活動の環境整備を中心に事業を進めてきました。

コロナ禍において顔と顔を合わせる機会が減ったこと、情報等が著しく不足していることなどを解消するための方策として、具体的にはインターネット環境の整備、オンライン事業の充実などを図ってきました。

令和3年度は今回整備した環境も活用しながら、サポートセンター本来の業務である市民活動団体の中間支援を充実させていきたいと考えています。

## 稲城市姉妹友好都市を紹介する パネル展

1月26日～2月9日に、稲城市役所と中央文化センターのロビーにて、稲城市の姉妹都市である北海道大空町、友好都市である福島県相馬市・長野県野沢温泉村、そして今後姉妹友好都市の締結が予定されているアメリカ合衆国カリフォルニア州フォスターシティ市の風景や街の様子、稲城との交流の歴史などを写真で紹介しました。

パネル展の様子は、多摩テレビでも放映されるなど多くの方がご覧になり、市民の方からは「各自治体と稲城市との交流が、どのようにして生まれたのかを知ることができた」などの声が聞かれました。

## こどもカメラマン 神野天杜くん写真展

2月1日～3月19日に地域振興プラザ1階で、姉妹都市である北海道大空町の神野天杜（じんの たかと）くんが撮影した人物・風景・乗り物など、数多くの作品から力作を厳選して展示しました。

天杜くんは、姉妹都市交流が縁で結婚された神野孝志さん（大空町）と里美さん（稲城市）のお子さんとして、



大空町で生まれ育ちました。2歳になる頃からカメラに興味を示し、ご両親のカメラを手に地元のお祭りや家族の写真を撮り続け、7歳の誕生日には「プレゼント3年分」として、一眼レフカメラを買ってもらいました。

それからは、週末には必ず町内の催しに出向くなど熱心に撮影を続け、小学2年生の時には美幌峠をテーマにしたフォトコンテストのジュニア部門でグランプリを受賞するまでになりました。しかし、天杜くんは血液の病気を患い、9歳という短い生涯を閉じることになりました。天杜くんがカメラを持ち始めてから撮りためた写真は実に8000枚を超え、その作品は今でも多くの人々から称賛を受けています。

写真展のことは読売新聞の紙面でも紹介され、大変な反響があり、市外からも多くの方が鑑賞に訪れました。

おしゃまします

## 長峰おひさま文庫

地域のお母さんたちが中心になって、子どもたちに絵本を読み聞かせたり民話や物語を語ったり、工作をしたりして、親と子、親同士、子ども同士が交流するサロンのような場、「地域文庫」。

長峰地区で毎月第一水曜日の15時から開かれている地域文庫が「長峰おひさま文庫」です。代表を務める澤恵さんが、1995年の長峰地区まちびらきとともに始めて、今年で26年になります。当初は自宅で開いていましたが、地区の自治会から集会所を使わせてもらえるようになり、現在一緒に活動している<sup>なきの</sup>棚野さん、飯田さんも加わって、週に1回、地域の子どもたちが集まる「たまり場」となりました。

やがて、長峰小学校の校長先生から依頼を受け、学校でおはなし会を開いたり、PTAのお母さんに声をかけて人形劇を上演するなど活動が活発になり、さらに同校の読書の時間には教室単位で全クラスに出張お話をを行うようになりました。

子どもの豊かな情操を育むことができるのが活動の魅力の一つであるという澤さん。「子どもたちは、一度聞いた物語をよく覚えていてくれて、その時の感動などが成長しても心の中に残っているようです。中学生の子が、小学生の頃よく来てましたと言って遊びに来てくれたりする」そうです。

コロナ禍で従来の集会所が使えなくなるなど、去年は活動が停滞しま



お話を聴く子、宿題やゲームをする子など、子どもたちは思い思いに、一緒に過ごす時間を楽しんでいます

したが、稲城市社会福祉協議会の助成も受けて、今は一時的に、あすか創建(株)が設けたコミュニティスペース「オアシス長峰」に場所を移して開催しています。それでも、1000冊を超える蔵書の中から、毎回絵本を選んで運ぶだけでも一苦労です。

「細く長く活動を続けていきたい。一緒に活動したりお手伝いしてくれる方がいたら嬉しいです」と話す澤さん。ご興味のある方はぜひ！

○問合せ先：澤さんメールアドレス  
himekimi.0419@ezweb.ne.jp